

時事通信社 iJAMP
iJAMP記事

【中央官庁だより】 ◇業種超えて、地域を元気に＝農林水産省②

17/02/13 07:30 KP036

全国から中小の建設業者を集め、「第2回建設業と農林水産業の連携シンポジウム」が、農水省内で開催された。政策課の担当者は「地方では農業や建設業が基幹産業になっているケースが多い。何かを始めようというときに二つの産業が力を合わせると効果は大きい」と趣旨を説明する。実際、09年12月以降に農業に参入した2222法人（16年6月末時点）のうち、建設業は226法人と10%を占めている。シンポジウムであいさつに立った奥原正明事務次官は「農林水産業にとって今ほどチャンス時代はない。意欲のある若い人、企業が参入しやすい環境が整っている」と力説。元事務次官の皆川芳嗣農林中金総合研究所理事長も「地方では地域の将来を担う実力のある組織をどこに求めるかで大変に悩んでいる。その一翼を建設業の皆さんにぜひ担っていただきたい」とエールを送った。建設業者が農業に進出するメリットとしては、事業多角化による収益構造の安定や、保有機械の稼働率向上などが挙げられる。先の担当者は「農業にさまざまな業種が参入することが競争力の強化につながる」と期待を示していた。（了）

（2017年2月13日／官庁速報）

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.